

## 「こども商店街事業」の根本的な見直しにおける実態調査（結果）と今後の展開について

### 1 経緯

- (1) 4月実施の児童館館長会の中で、6月開催について多くの異議が出された。
- (2) 改めて6月開催について全館調査  
半数以上の館から実施不可との回答があった。また協力店舗の見込みがない児童館も多かった。
- (3) 健康推進課として、今年度のこども商店街の開催を中止する方向で、令和7年度第1回すみだ食育推進会議に付議した。  
その結果、今年度の開催は見送り、根本的に見直しをしていく上での方策を検討する旨の議決が出された。「場の提供」、「段取り」、「お店とのマッチング」、「リアルか動画か」など。

### 2 実態調査

- (1) 当該議決を踏まえ、児童館の実態調査を実施することとした。実態調査は、単にこども商店街の開催に関するにとどまらず、来年度に控える計画改定作業を見据えた抜本的なものとして実施することとした。
- (2) 調査は「芽室町との食を通じた交流」の取組を行っている4館を対象として、事前に調査票を送り、後に改めて各館の館長にヒアリングを行う形で実施した（11月実施）。

### 3 調査結果

その結果、以下のことが分かった。

- ・児童館が地域のハブとしての役割を担っていること
- ・最近では父親の利用も増えていて、子どもの育みだけでなく親の育みにもつながっていること
- ・食は誰にでも関係するが故ハードルが低く、また子どもへの訴求力も非常にあるため、児童館が地域とつながる手段として、「食育」や「食」は極めて有効であること
- ・児童館同士、横のつながりを求めていること
- ・やはり児童館はこども商店街の復活を求めていること
- ・児童館は地域ともっとつながることを求めており、それが防災にもつながると考えていること
- ・子どもたちを育む家庭の機能が弱体化の傾向にあり、その機能が地域ある児童館に求められる状況にあること
- ・子どもたちが抱える衣食住の課題を考えると、児童館に求められていることが10年前とは異なる環境にあり、そうした課題の解決を図る手段としても「食育の取組」は効果的であること 等

### 4 調査結果を踏まえて

児童館が果たしている、或いはこれから更に担える役割は、まさに墨田区食育推進計画に定める5つの基本目標（食でひと、まち、交流、安心、協働を育む。）につながっていると言える。

よって、来年度の食育推進計画の改定作業においては、「児童館部会（仮称）」を設置し、様々な意見を集約した上で、こども商店街の再開（又はそれを発展させた形の新たなイベントの開催）等を目指していきたいと考えている。